

■ 最適化の実施内容(概要)

奨学金業務・システム最適化の実施により、機器の借料を中心として年間 **約1.3億円(試算値)** の経費削減を見込む。

1. イクシスの刷新

(1) 年間経費の削減

・ホストは、メーカー固有のハードウェア及びソフトウェア構成となっており、年間経費の削減が困難な状況である。また、使用場所や利用方法にも制限があるため、現状のホストから汎用的なシステムへの見直しを行い、経費の削減を図る。

(2) データ処理の効率化及び管理の厳密化

・ホストのデータベース・ファイル構造を見直し、奨学金業務・システムを拡張性に優れた高度なデータベースで構築する。これにより、データ処理の効率化及び管理の厳密化を行う。

(3) 開発・運用に係る経費削減

・ミドルウェアを中心とした汎用パッケージソフトウェア製品を積極的に活用することにより、システムの柔軟性、拡張性を確保、開発・運用に係る経費削減を図る。

2. データ入出力業務負荷及び対応業務の軽減

(1) 作業負荷の軽減や作業ミスの削減

・入力・管理しやすい項目設計を行い、作業負荷の軽減や作業ミスの削減を図る。

(2) 目視確認や人手作業の業務改善

・可能な範囲で現状のバッチ処理からオンライン処理に変更することにより、データ入力時のチェック機能を強化し、エラー件数の削減を図るとともに、目視確認や人手作業の業務改善を行う。

3. 情報提供の迅速化・充実化

- ・可能な範囲でバッチ処理からオンライン処理に変更となるため、学生、返還者及び学校等に対する情報提供を迅速に行い、サービスの向上を図る。

4. 外部委託の推進

- ・職員による判断を必要としない業務処理、その他業務・システムを担当する組織の中核的な知識、能力を必要としない業務処理については外部委託の徹底を行う。

5. セキュリティの確保

- ・端末からのアクセス方法が、専用アプリケーションからWebブラウザ等の汎用アプリケーションになることから、機構の情報セキュリティポリシーに準拠した最新技術の導入等、より一層のセキュリティ対策を実施する。

6. 調達における透明性の確保

- ・分離調達や競争入札等、より一層の競争性、透明性及び公正性のある調達を行う。